

航空界の夜明け 語り継ぐ場

西武線の所沢駅から本川越方面へ、次の駅が航空公園駅だ。東口を出て振り返ってみたら、駅舎は複葉機をイメージした形で、中央にかかる時計の針はプロペラの形をしていた。

正面には特産の狭山茶を宣伝する小さな茶畑と、国産のプロペラ旅客機「YS 11」が見える。この脇を進むと所沢航空記念公園。約50畝の敷地に、ヤマザクラなど計約500本の桜をはじめ100種類以上の樹木が散在し、四季それぞれの花を咲かせる。天気の良い日は親子連れが弁当を広げる姿も。

公園は、1911年に日本初の飛行場として開設された所沢飛行場の跡地。「飛行場だったところを知る市民の方が少ない。ここは徳川好敏大尉操縦の(複葉機の)アンリー・ファルマン機が飛行に成功した日本の航空発祥の地。それを語り継ぐ場所です」と「所沢航空資料調査収集する会」の越阪部四一郎さん

(84)が教えてくれた。

公園内には軍用のC 46輸送機や航空事故の日本初の犠牲者、木村鈴四郎、徳田金一両中尉の記念塔などが並ぶ。目をひくのはドーム型の航空発祥記念館。国産初の軍用機「会式1号機」のレプリカなど、戦前戦後の飛行機、ヘリコプターが展示されている。ジャンボ機の操縦を楽しめるフライトシミュレーターもある。

公園の南を走る国道463号には、さいたま市の北浦和から所沢駅周辺まで約2400本の「日本一のケヤキ並木」がある。国道を渡り南に100mほど行くと、東川の川べりに64年の東京五輪後に植えられたという桜並木が続く。

千歳橋脇に立派な門構えの建物が見えた。能面師・福山元誠さん(56)の工房を兼ねる長屋門能面美術館だ。「日本文化の神髄を少しでも感じてもらえれば」と福山さん。築約150年とい

う農家の母屋にあるギャラリーに、いくつもの面が静かに並んでいた。(所沢支局 広田茂樹)

「ぶらり駅前」は今回で終了し、7日から「訪ねて あの舞台」が始まります。

メモ

航空発祥記念館は月曜休館。入場料は大人500円、小学生250円。随時、イベントなどを実施。長屋門能面美術館は、第1・3土日曜のみ開館。入場料300円。開館日に能面教室を開講。

